

| 評価実施年度           | 令和 5 年度  | 学校名   | 大分県立 竹田 高等学校   |  |
|------------------|--|---|--|--|
| 学校教育目標           | 「自律自尊」・「進取研鑽」・「和衷協同」の校訓のもと、生徒が主体的に学び他者と協働する力を高め、高い志を持って地域・社会の継続的な発展に貢献できる人材を育成する。  |   |  |  |
| 重点事項             | 評価項目   | 評価の観点   | 評価   | 今後の改善方法(学校作成)  |
| カリキュラム・マネジメントの確立 | 学校教育目標   | ○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。  | ・極めて良い。<br>・学校教育目標に基づく重点目標が的確に定められ、授業改善、地域創生、人間形成に効果が認められる。<br>・竹田高校教育ビジョンにより、中期的な目標や方針が具体的にわかりやすく示されている。<br>・3つの校訓(「自律自尊」「進取研鑽」「和衷協同」)がそれぞれ重点目標におしこまれており、わかりやすい。  | ・令和5年度は大変高い評価をいただいた。<br>・令和6年度はスクール・ポリシー、スクール・ミッションの公表を踏まえた学校教育目標を策定し、効果的な重点目標に沿った教育活動を展開していきたい。<br>・学校教育活動のアピールの場面では、教育関係者以外にも分かりやすい文言による丁寧な説明を心がけたい。   |
|                  | P D C A サイクル   | ○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。<br>○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。<br>○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。   | ・極めて良い。<br>・具体的な取組が行われていることや、調査による検証を行った後に、具体的対策を実行していることは評価できる。<br>・校内授業研究会の実施により、取組指標や到達指標など達成へのアプローチが担保されている。<br>・学校運営協議会からの評価集約が的確に行われ、改善に取り組むことができている。  | ・令和5年度は大変高い評価をいただいた。<br>・特に本年度からスタートしたコミュニティ・スクールにおける学校運営協議会や第三者評価委員のご意見、生徒・保護者アンケートからの情報を全職員で共有しながら改善策を構築することができた。<br>・令和6年度もこのサイクルを踏襲し、「地域に開かれた学校」として幅広いご意見を傾聴しながら、機を逸することなく迅速にアップデートを図っていきたい。   |
|                  | 社会との連携・接続  | ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。<br>・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等)<br>・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。<br>・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。   | ・極めて良い。<br>・生徒の学校への満足度は高い。人間関係づくりを目的としたプログラムの効果が出ていると思われる。<br>・学校運営協議会の開催により、家庭や地域人材を取り込んだ協働体制が構築されている。<br>・総合的な探究の時間にTCP(竹田コミュニティプランニング)を行い、地域を知り、連携を深める機能を果たしている。<br>・TCPにより、竹田に対する愛着を深め、将来の竹田の発展を担う人材の育成につながっている。   | ・令和5年度は大変高い評価をいただいた。<br>・特に人間関係づくりプログラムや学校HPの更新に関して、生徒・保護者に加えて学校外の多様な方々から評価していただいた。<br>・令和6年度もこの取組を継承しつつ、学校運営協議会の機能活用や総合的な探究の時間と「DXハイスクール」の融合により、さらなるブラッシュアップを図ってきたい。  |
| 主体的・対話的で深い学びの実現  | 授業の活性化   | ○授業の活性化が図られているか。<br>・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。<br>・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。<br>・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。<br>・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。<br>○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。<br>○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 | ・良い。<br>・ICTを活用した授業については授業展開の効率化等、ICTの効果を生かす取組がなされている。<br>・授業評価を活用して、個人や教科の観点から要因を検証し、具体的な授業改善に繋げることが期待される。<br>・「スマイルプログラム」という名称の人間関係づくりの活動が取り入れられており、授業の活性化も期待される。<br>・TCPにより、課題解決の方法や新たな気づきを得る機会となっている。<br>・授業における対話的な学びをさらに推進する上で、主体的に考える時間の配分を検討する必要がある。 | ・令和5年度の授業に対する生徒の満足度は概ね高いものであったが、さらなる「言語活動の充実」を望む声も少なからずあった。<br>・令和6年度は授業改善スクールプランの検証指標や授業研究会テーマに「言語活動(の充実)」を加えることで、生徒のニーズに応じた組織的な授業改善に取り組んでいきたい。<br>・生徒のニーズや要望、満足度を収集するためにも、年間2回のアンケート(学校満足度及び授業についてのアンケート)実施を堅持し、その結果を基に年度途中であっても柔軟な姿勢で授業改善に取り組んでいきたい。<br>・高い評価を得ている総合的な探究の時間の成果を授業にも生かし、探究に向かう主体性を発揮できる授業改善に努めていきたい。 |
| 安全・安心な教育環境       | いじめ・不登校等の対策  | ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。<br><br>○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。   | ・良い。<br>・人間関係づくりを目的とした取組により、いじめのない環境づくりができています。<br>・いじめや不登校に対して、生徒と教員間の信頼関係の醸成がなされている。<br>・学校満足度アンケートにより潜在的な課題の掘り起こしが行われ、早期解決につながっている。<br>・個々の生徒の意見を取り入れるシステムの導入により、より風通しのよい学校になることを期待する。<br>・生徒会の要望により校則を見直すこと等は、改善のための契機になると考えられる。                         | ・生徒と教員との話し合いの場の設定・実施を経て、令和5年度末に生徒の要望を取り入れた校則の見直しが行われた。<br>・これを契機として、校則等についての生徒と教員による話し合いや生徒の主体性を様々な場面で陶冶していこうとする意識が醸成されているので、令和6年度はさらにこの動きを踏襲・発展させていきたい。   |
|                  | 安全管理   | ○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。<br><br>○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。   | ・極めて良い。<br>・危機管理マニュアル、防災マップ等を的確に作成し、安全管理に対する意識が高く、取組も充実している。<br>・あらゆる災害への対応策が準備されており、安全・安心な環境づくりがなされている。   | ・令和5年度は大変高い評価をいただいた。<br>・危機管理マニュアルや防災マップは整備されているが、より効果的なものになるよう毎年のアップデートが必要である。<br>・安全・安心な環境を構築するためには、マニュアルのさらなる整備に加えて教職員一人ひとりがマニュアル等の内容を理解し、実際に行動に移せることが重要であり、実践的な避難訓練や職員研修の機会を設けていきたい。   |
| 信頼される学校づくり       | 働き方改革  | ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。<br>・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。<br>・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。<br>・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。  | ・働き方改革については、ノー残業デーの設定や学校閉庁日の徹底、業務の見直しにより、改善が図られている。<br>・人手不足や時間不足により実施が難しい業務がある状況だが、超過勤務の改善をさらに進める必要がある。<br>・部活動以外の超勤要因について、状況の把握や解決策の検討を進めてもらいたい。   | ・超過勤務の改善のために一人ひとりの業務の平準化や業務負担を軽くすることが大前提であるが、一朝一夕には進展しないため、業務そのものの見直しが急務である。<br>・特に各行事については前年度の踏襲を避け、その都度協議を重ねて精選することで業務担当者の負担軽減を目指していきたい。   |
|                  | 学校課題の解決に向けた取組等   | ○入学定員の確保  | ・少子化による受験生の減少に対して、学校の良さをさらにアピールする必要がある。<br>・TCP等の取組により地域との連携が深まり、卒業生が竹田市に将来戻ってくることを期待される。<br>・中長期的には、特色ある教育カリキュラムや学科の設置、PR方法の改革・強化等が求められる。   | ・地域の中学校の生徒数減少という社会的な要因もあったが、令和6年度入試では入学定員を確保することができなかった。<br>・令和6年度は学校HPやFacebookに加えて、学校の良さをアピールするための、より効果的なメディアの模索やここ数年途絶えていた「学校だより」を地域の中学校(全生徒)へ配付していきたい。   |
| 総合評価             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長のリーダーシップの下、教職員が学校教育目標および重点目標をしっかりと共有し、学校作りがなされていることは評価できる。</li> <li>・進路指導の充実や授業改善の効果により、生徒の満足度も高い。</li> <li>・人間関係づくりに配慮されたプログラムや地域創生プログラムも工夫されており、竹田高校の魅力となっている。</li> <li>・竹田高校の良さをさらに地域や中学生にアピールすることを期待する。</li> </ul>   |   |  |  |
| 校長コメント(次年度の改善策)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者評価委員から高い評価を得たことは、取りも直さず本校職員の実践が認められたことに他ならない。しかし、その一方で超過勤務が望ましい形に改善されなかったことを見逃さず重く受け止めて改善に取り組む。その方針として次年度は、学校運営の両輪に「重点目標・重点的取組」と「働き方改革」をすえて、生徒や保護者、地域の人々にとっても、そして本校の職員にとっても満足度の高い取組を推進していきたい。そのためには、思い切った業務の精選や縮減が必要であるが、ミドルリーダーを効果的に活用しながら、スピード感をもって適切に判断していきたい。</li> <li>・また、入学定員の確保が本校の課題の一つである。課題克服のためには上記のような様々な広報活動の工夫が必要であることはいまうまでもないが、本校に在籍する生徒や保護者の「口コミ」も本校の良さをアピールするのに極めて効果的である。そのためには、生徒や保護者、地域の方々の願いやニーズを汲み取り、教職員で共有したのち迅速に改善策を示していくことが重要である。「自律自尊」「進取研鑽」「和衷協同」の校訓の下、「学校満足度100%」を目指して、魅力ある高校づくりに努めてまいりたい。</li> </ul> |   |  |  |